

第5回長期計画審議会での質問に対する回答等

	Q	A
1	<p>中間答申に向けての審議について(行政分野別審議の進行方法に関して)、毎回のまとめをした事務局案について委員が審議するとされているが、資料配布のみで具体的な議論は行われていない状況である。</p>	<p>前回の審議会まとめとしてお示している資料については、行政分野別の審議の概要として、区側が考えている今後の課題や施策の方向と、それらに対する審議会の主な意見、そこから導き出されるキーワードを抽出して、ご確認いただくために作成しています。そのため、審議会の進行上、再度そのことについて具体的に議論をするといったことは想定していませんが、資料の内容や足りない視点など、お気づきの点等がありましたら、事務局までご連絡をお願いします。</p>
2	<p>『区の考え方』のうち、50%が『…意見を踏まえて記載内容、表現等を検討します』等となっているが、重要項目については、中間答申に向けて可能な限り検討結果の前倒しの開示をお願いしたい。</p>	<p>審議会の場合及び審議会後にいただいたご意見・ご要望に対する「区の考え方」について、現時点で回答が難しく、今後の検討課題とさせていただくものについては、大きく分けて下記の2パターンで記載しております。</p> <p>①「今後、中間答申等を取りまとめていくに当たっては、ご意見を踏まえて、記載内容、表現等を検討します。」⇒中間答申や最終答申に向け、基本構想や基本計画に当該考え方をいれるかどうか検討する必要があると思われるご意見に対する、統一した回答です。</p> <p>②「今後、施策を展開していくに当たっては、いただいたご意見を参考にさせていただきます。」⇒基本構想や基本計画に反映させるというよりは、各所管の具体的な事業計画や今後の事業執行の際に参考にさせていただくご意見と考えるものに対する、統一した回答です。</p> <p>審議会での中間答申や最終答申については、①のご意見等を参考にしながらまとめていきますが、事務局内及び小委員会での検討経過も含めて、審議会の中で情報共有できるように努めていきます。</p>
3	<p>検討シートの内容も大切だが、区民の寄付を納得できる形で有効活用する仕組みを作るべきではないか。それは、「目黒区版ふるさと納税制度」を今回の各分野の「政策課題」「課題解決の方向性」に資金資源として投入すべきである。過度の返礼ではなく、「例えば、小、中児童、生徒の個別タブレット購入」などに使用し、納税者には「お礼状と使用用途報告、中間および最終報告」を送り情報共有をするなどが考えられる。納税者にはふるさと納税領収証明を送付し、税金還付に利用し、礼品なしとすれば良いのではないか。既に、隣接の「港区」はこのように「ふるさと納税制度」を導入しているの、参考にしようか。</p>	<p>多様な財源確保の取組が求められており、ご指摘のクラウドファンディング型のふるさと納税制度の活用については、昨年「園庭のない保育園の子どもたちを応援する事業(子どもたちの「ヒーローバス」運行プロジェクト)」を実施しました。ご寄付をいただいた方には、保育園の子どもたちから届いた絵を記念品としてお送りしました。</p> <p>今後、各施策を展開していく当たっても、ふるさと納税制度も含め、様々な財源確保の手法を検討していく必要があるものと考えています。</p>